

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2013年第1四半期 決算説明資料

2013年5月8日発表

取締役 執行役員 CFO
酒井 仁和

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社 42社: +4社 韓国昭和化学品(株) (化学品セグメント)
 四川昭鋼炭素有限公司(無機セグメント)
 名古屋研磨材工業(株) (無機セグメント)
 昭光通商(上海)有限公司 (その他セグメント)
- 持分法適用会社 18社: △1社 テクノ・ナミケン(株) (その他セグメント、清算)

主要諸元

(期中平均)

	2012年1-3月	2013年1-3月	増減
■ 為替レート ※ (円/US\$)	79.3	92.4	13.1円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	54,100	63,800	9,700
■ アルミ地金LME (US\$/T)	2,215	2,041	△174

※12年12月末レート86.6円 13年3月末レート94.1円 ⇒ 7.5円円安

連結業績の概要

(億円)

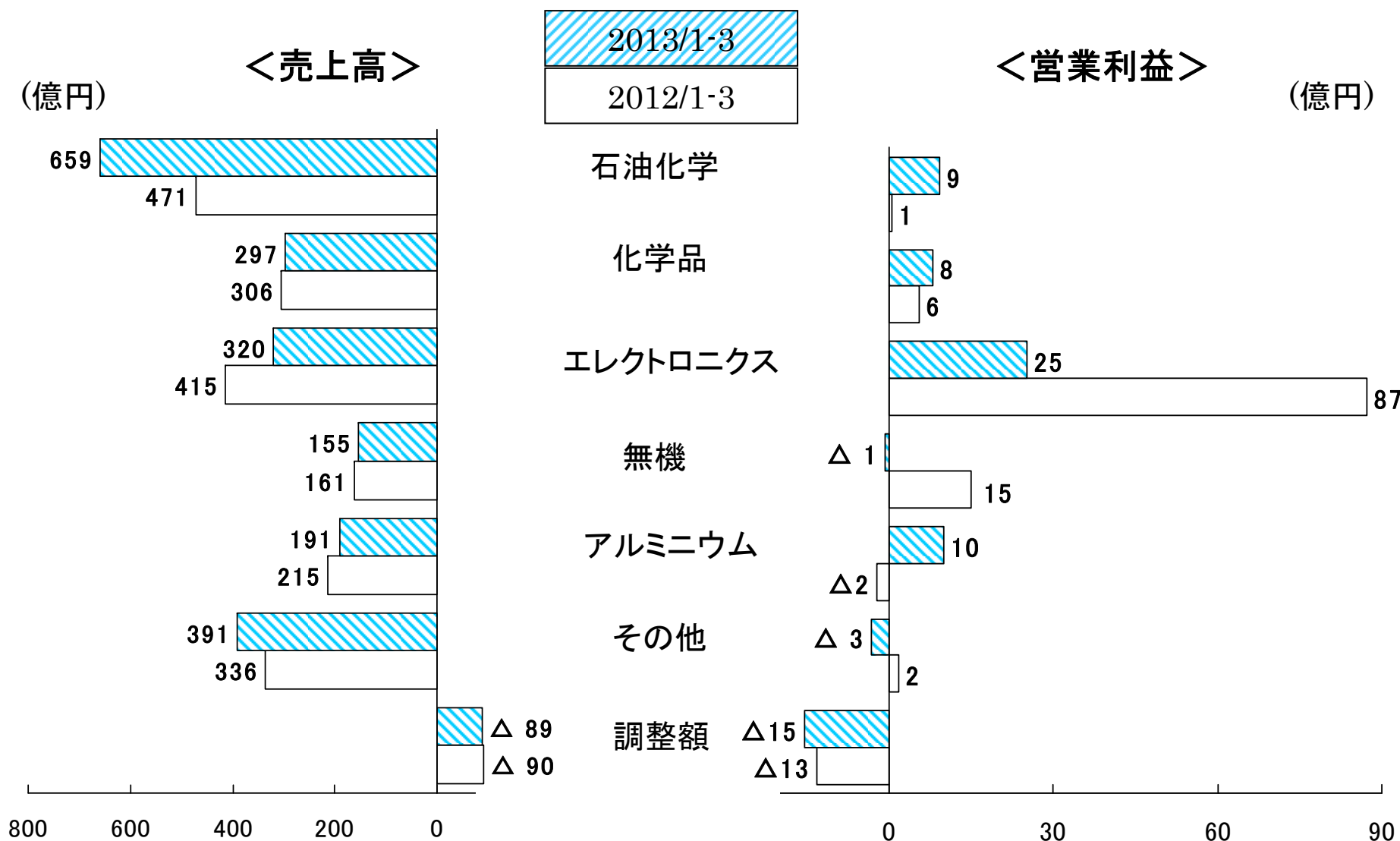
	2012/1-3	2013/1-3	増減
売上高	1,814	1,925	111
営業利益	95	34	△62
営業外損益	△12	5	17
金融収支	△9	△8	2
持分法投資損益	5	3	△2
為替差損益	0	13	13
その他	△7	△4	4
経常利益	83	39	△44
特別利益	3	10	6
特別損失	△16	△23	△7
税金等調整前四半期純利益	70	25	△45
法人税等	△13	19	32
少数株主損益調整前四半期純利益	58	44	△13
少数株主損益	△4	△3	1
四半期純利益	53	41	△13

特別損益の内訳

(億円)

	2012/1-3	2013/1-3	増減
■特別利益	3	10	6
●契約解除補償金	—	8	8
●その他	3	2	△1
■特別損失	△16	△23	△7
●固定資産除売却損	△3	△4	△1
●事業構造改善引当金繰入額	—	△14	△14
●減損損失	△4	△1	3
●その他	△9	△4	5
■特別損益	△13	△13	0

セグメント別業績の概要



連結売上高差異内訳

(億円)

	2012年 1-3月	2013年 1-3月	増減	項目
石油化学	471	659	188	オレフィン:増収(前年のエチレン設備不具合解消による数量増、 価格上昇) 有機:増収(酢ビ数量増)
化学品	306	297	△9	基礎化学品:増収(AN:小幅増収) 産業ガス、機能性化学品:小幅減収(数量減) 情報電子化学品:前年同期並み
エレクトロニクス	415	320	△95	HD:減収(数量減) 電子機能材:減収 化合物半導体:減収(GaN系青色LED事業譲渡) レアアース:大幅減収(数量減)
無機	161	155	△6	セラミックス:小幅増収(電子材料分野向け数量増) 電極:減収(単体・米国共に数量減)
アルミニウム	215	191	△23	コンデンサー用高純度箔:減収(数量減) 機能部材:減収 LBP用シリンダー:僅かに増収、ショウティック:減収 アルミ缶:前年同期並み
その他	336	391	55	リチウムイオン電池材料:小幅減収(自動車向け減少) 昭光通商:小幅増収、昭光通商(上海)を新規連結
調整額	△90	△89	1	
合計	1,814	1,925	111	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2012年 1-3月	2013年 1-3月	増減	項目
石油化学	1	9	9	オレフィン:増益(数量増、価格上昇) 有機:小幅増益(数量増)
化学品	6	8	2	基礎化学品:小幅増益(アンモニア等) 産業ガス:僅かに減益 情報電子化学品:小幅増益 機能性化学品:前年同期並み
エレクトロニクス	87	25	△62	HD:減益(数量減、HDD業界生産調整) 電子機能材:減益 化合物半導体:増益 レアアース:大幅減益(棚卸資産の簿価切下げの影響、数量減)
無機	15	△1	△16	セラミックス:減益(電子材料分野向け価格低下) 電極:減益(単体・米国共に数量減)
アルミニウム	△2	10	12	コンデンサー用高純度箔:小幅増益 機能部材:小幅減益 LBP用シリンダー、ショウテック:前年同期並み 熱交換器:減益 アルミ缶:増益 アルミ地金受払差改善
その他	2	△3	△5	リチウムイオン電池材料:減益(自動車向け減少) 昭光通商:前年同期並み
調整額	△13	△15	△2	
合計	95	34	△62	

連結貸借対照表

(億円)

資産	2012年 12月末	2013年 3月末	増減	負債・純資産	2012年 12月末	2013年 3月末	増減
現預金	516	415	△101	営業債務	1,072	1,110	38
営業債権	1,382	1,483	101	有利子負債	3,423	3,629	207
たな卸資産	1,218	1,293	76	退職給付引当金	234	227	△7
その他	306	365	59	その他	1,453	1,350	△102
流動資産計	3,421	3,556	135	負債計	6,182	6,317	135
建物・構築物	816	847	31	資本金	1,406	1,406	0
機械装置・運搬具	1,152	1,171	19	資本剰余金	622	622	0
土地	2,543	2,546	3	利益剰余金	532	533	2
他有形固定資産	222	268	46	自己株式	△1	△1	0
有形固定資産計	4,733	4,833	100	株主資本計	2,558	2,560	2
無形固定資産	103	117	13	その他有価証券評価差額金	9	31	22
投資その他の資産	1,075	1,056	△19	繰延ヘッジ損益・為替換算調整勘定	△120	△58	63
(内、投資有価証券)	678	720	42	土地再評価差額金	280	280	0
				その他の包括利益累計額合計	169	254	85
				少数株主持分	422	431	8
固定資産計	5,911	6,005	95	純資産計	3,150	3,244	95
資産合計	9,332	9,561	229	負債・純資産合計	9,332	9,561	229

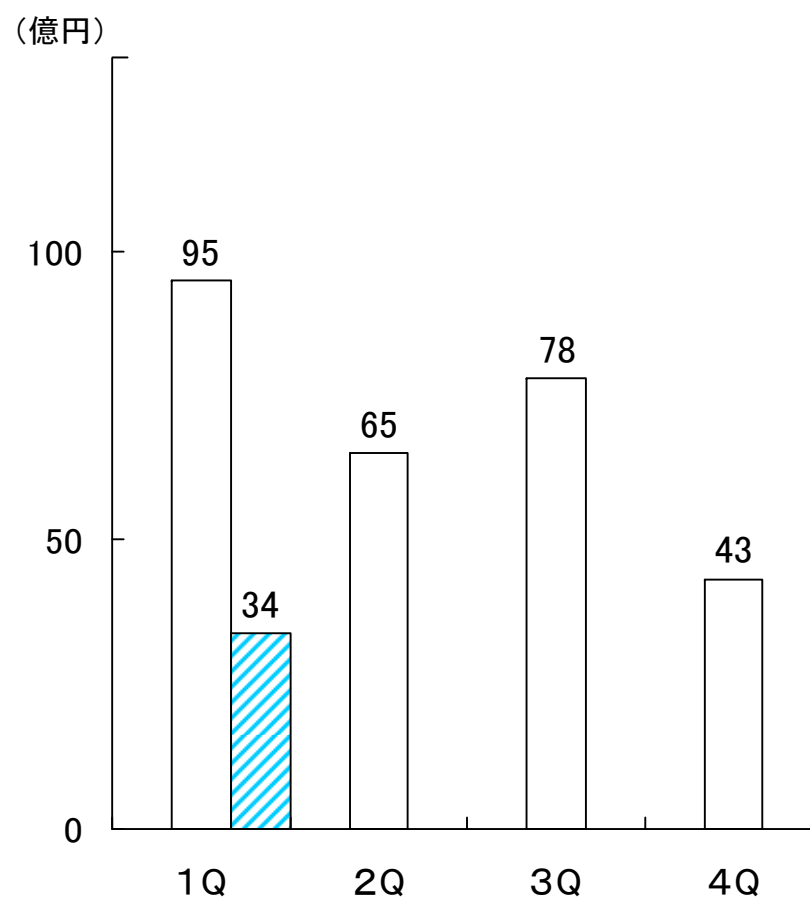
総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2012年12月末	2013年3月末	増減
■ 総資産	9,332億円	9,561億円	229億円
■ 有利子負債	3,423億円	3,629億円	207億円
■ D/Eレシオ	1.09倍	1.12倍	0.03p増
■ 自己資本比率	29.2%	29.4%	0.2p増

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

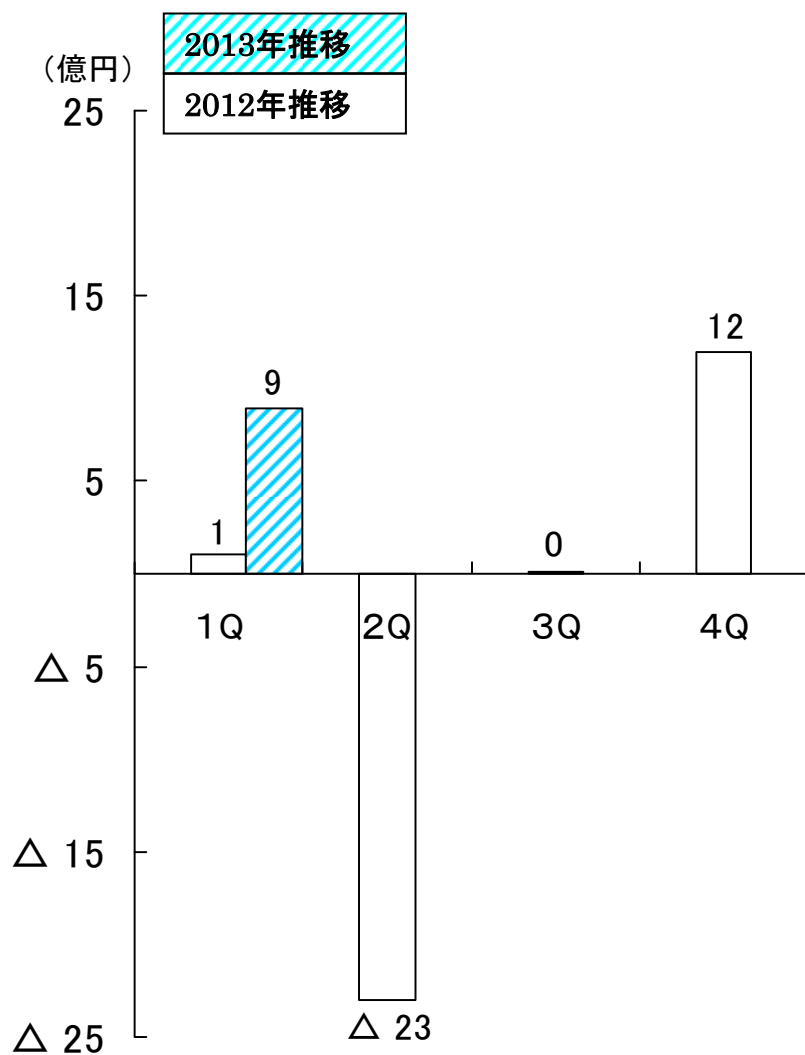
■ 全 社

2013年推移
2012年推移

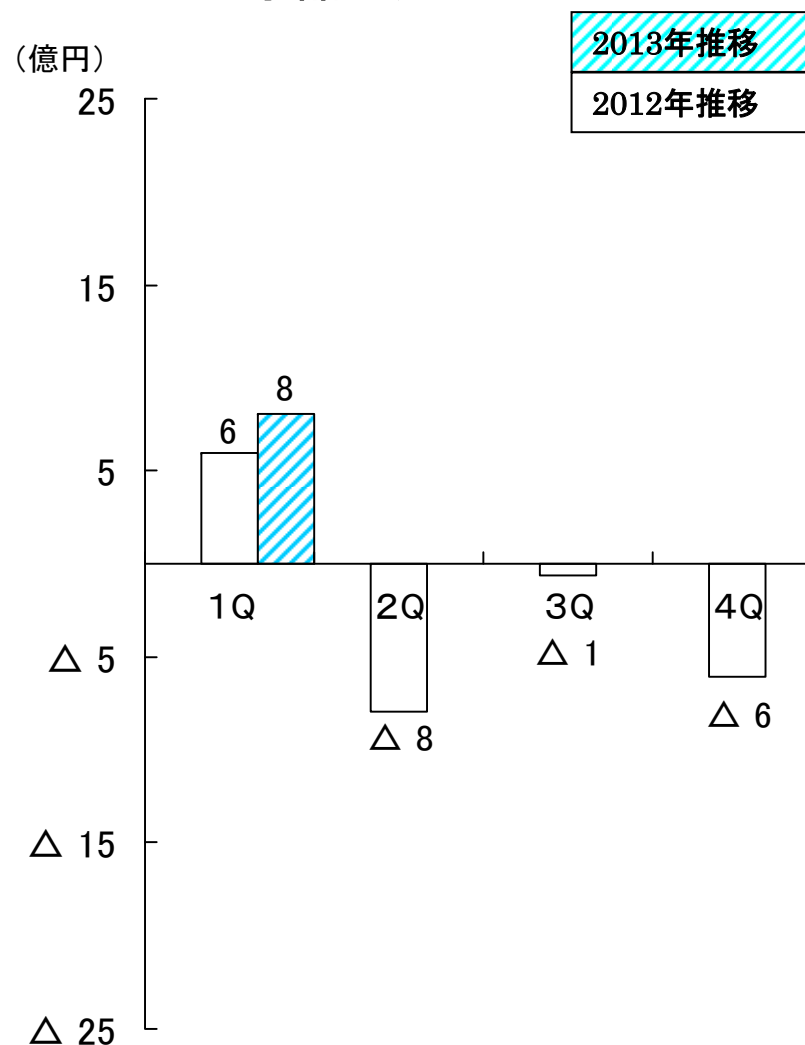


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント

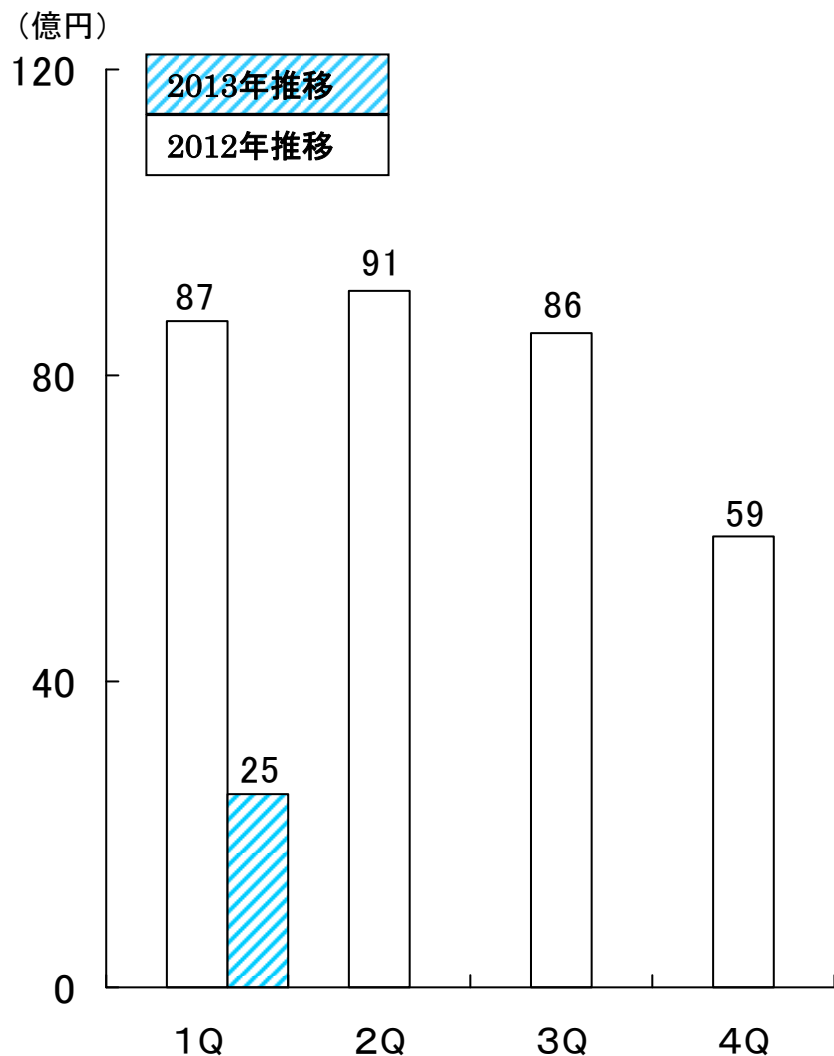


■化学品セグメント

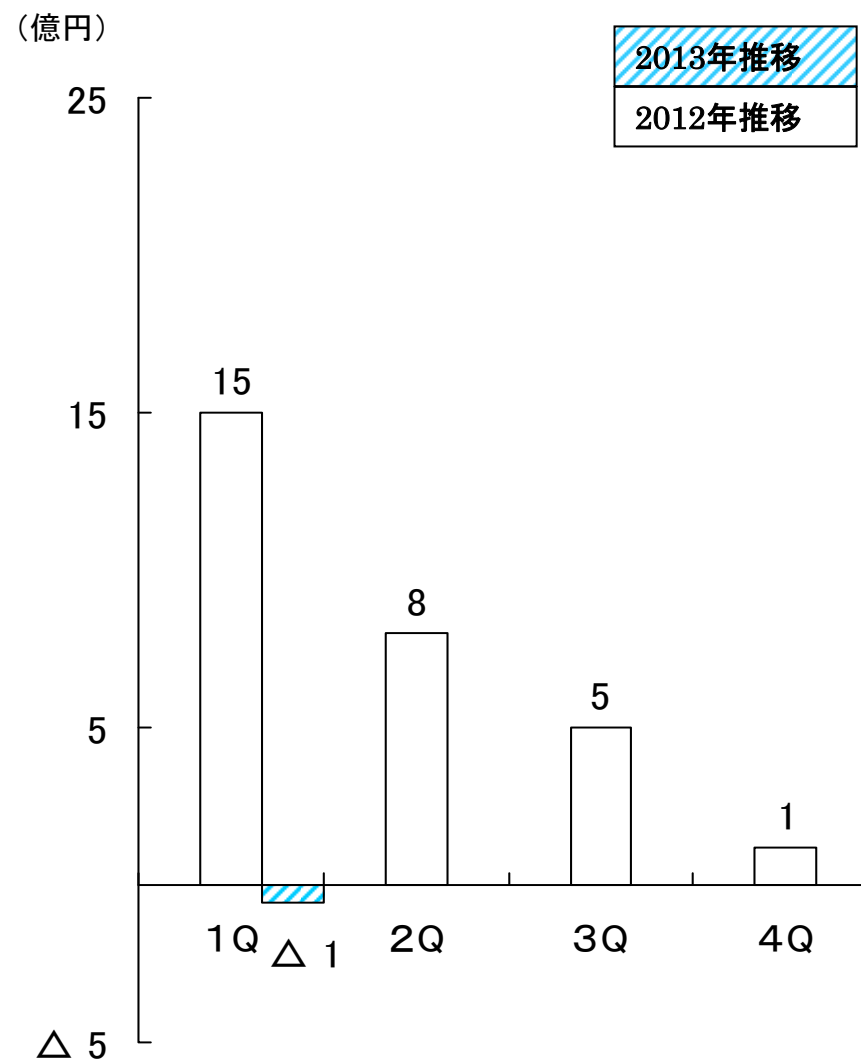


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■エレクトロニクスセグメント

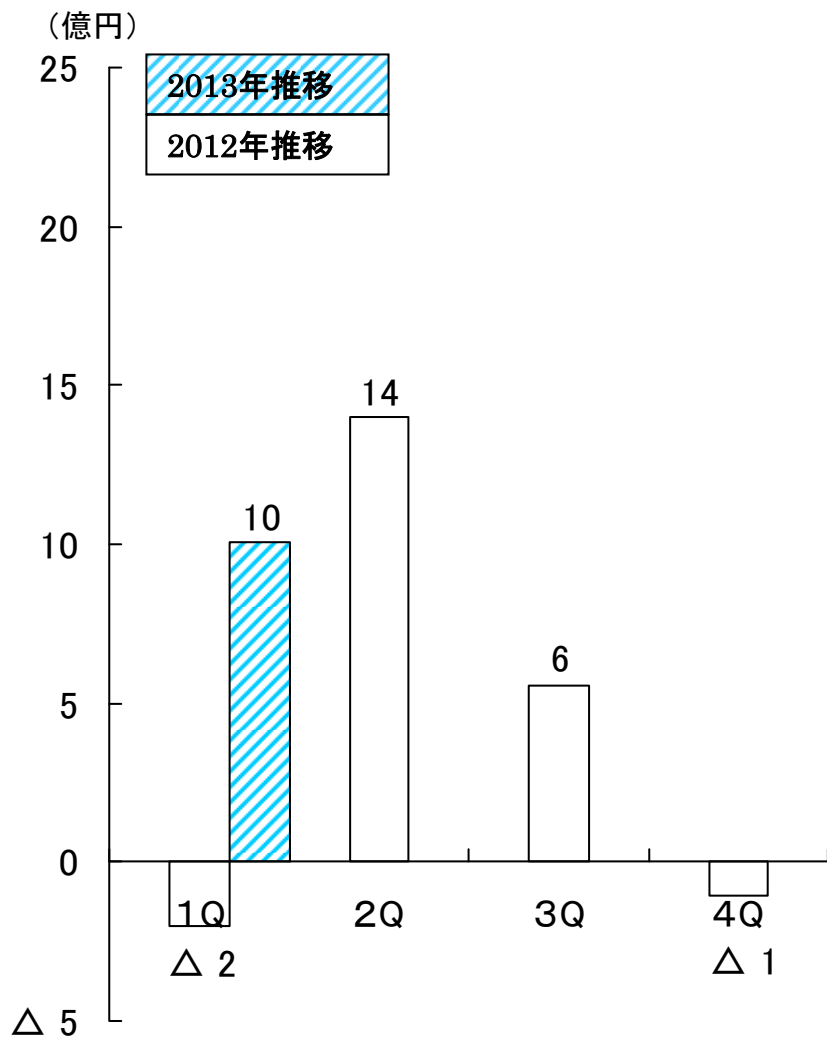


■無機セグメント

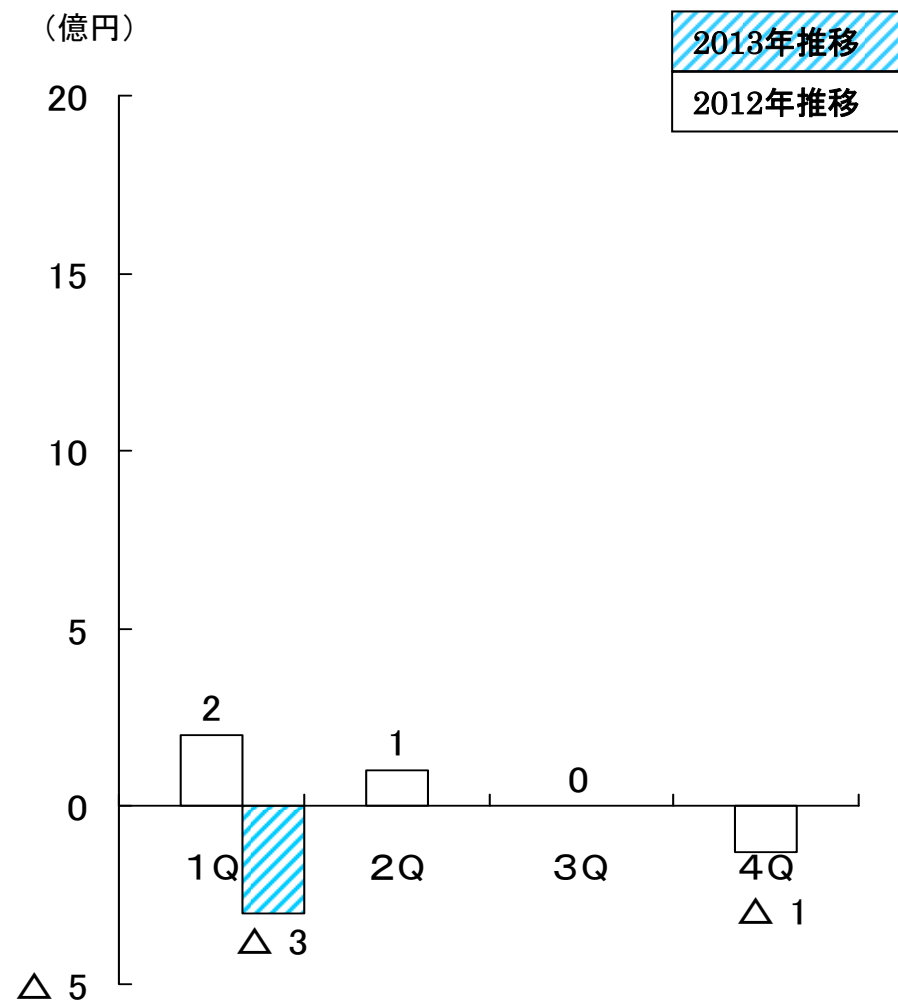


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



■ 全社施策

● ナノテクノロジー素材フラーレンで戦略的事業提携

- ◆ ナノテクノロジー分野で注目される炭素素材フラーレンの事業化に向けた戦略的事業提携を本年1月に三菱商事(株)と実施し、同社より製造販売会社「フロンティアカーボン(株)」の株式50%を譲り受け、共同運営会社とした。

フラーレンは、直径1ナノメートルのサッカーボール状の分子で、有機溶媒に溶解、かつ優れた電子受容性を持つことから、有機薄膜太陽電池の負極材等、エレクトロニクス分野における有望素材として期待されている。

当社は、フラーレンと並ぶナノ炭素素材であるカーボンナノチューブ「VGCF[®]」で10年以上の量産実績を有しており、「VGCF[®]」におけるナノ技術の蓄積が本事業に応用できると判断し提携を決定した。今後、「フロンティアカーボン(株)」と共同でフラーレンの事業化に向けて研究開発、マーケティングを進めていく。

● 革新的炭素素材グラフェンの量産化技術を開発

- ◆ 科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)の一環として、国立大学法人東北大学多元物質科学研究所と共同で、革新的炭素素材であるグラフェンの超臨界流体を用いた量産化技術を開発した。グラフェンは、炭素原子が六角形の網目状に結合したシートで、シリコンの100倍以上のキャリア移動度、熱的・化学的安定性などの特長を持つ。これまで量産化が大きな課題だったが、今回、有機溶媒の超臨界流体を使用しグラフェンの剥離処理を行うことにより、安価で高速に良質なグラフェンを製造することが可能となった。これにより、従来の電子材料用途に加えて、軽量高強度部材や電池材料、電力・発電技術などのエネルギー技術への実用化が進むものと期待される。

■化学品セグメント

●液化アンモニア「エコアン[®]」の東北圏への拡販体制を構築

- ◆ 東日本大震災で被災した液化アンモニアの物流基地(福島県相馬郡)の再建を決定した。本年6月より再建工事を開始し2014年3月に運営を開始する予定。液化アンモニア「エコアン[®]」は、使用済みプラスチックを原料の一部に使用した製品で、大手電力会社からグリーン調達品として認定を受けるなど高い評価を得ている。液化アンモニアは、合成繊維の製造や火力発電所等の脱硝(排ガスに含まれる窒素酸化物の除去)に用いられ、特に火力発電の高稼働が予想されることから堅調な需要が見込まれる。

「エコアン[®]」を基礎化学品事業における主力製品として、さらなる販売強化を図るため、物流基地を運営していた100%子会社「丸昭興業(株)」を本年4月25日付で吸収合併し、当社主体の事業運営とする。

●リチウムイオン電池負極用バインダーの量産を開始

- ◆ リチウムイオン電池の負極用水系バインダー「ポリゾール[®] LBシリーズ」の量産を本年2月より開始した。本製品はアクリル系合成樹脂エマルジョンで、溶剤系バインダーに比べ、リチウムイオン電池製造時の環境負荷が低く、低抵抗性、優れた温度特性、負極集電板との高密着性などの特長を持ち、リチウムイオン電池の長寿命化、高容量化に寄与する。バインダーとは、リチウムイオンが出入りする正・負極活物質やその他補助添加剤、集電板を結着させる接着剤の役割を果たす補助部材で、リチウムイオン電池の性能に大きな影響を与えるキーマテリアルの一つとして注目されている。

セグメント別トピックス

■ 化学品セグメント

● 海底トンネルを利用した省エネルギーの取り組みが入賞

- ◆ 川崎事業所における「海底トンネルを活用した蒸気ボイラーの統廃合による地域間省エネルギー」の取り組みが、神奈川県川崎市主催「かわさき環境ショーウィンドウ大賞2012」で「省エネ創エネ取組事例2012」の入賞事例に選定された。

今回入賞した取り組みは、本事業所内の扇町地区のボイラー設備で発生させた蒸気を、パイプラインを通じて同地区内の昭和電工ガスプロダクツ(株)川崎工場に供給すると共に、運河で隔てられた大川地区へも海底トンネルを活用して供給するもので、従来に比べエネルギー使用量を約42%、二酸化炭素排出量を年間約2,400トン削減した。

■ 無機セグメント

● 中国黒鉛電極メーカーの子会社化を完了

- ◆ 中国の黒鉛電極製造会社である中鋼集団四川炭素有限公司の持分取得にかかる手続きを完了し、本年3月18日付で「四川昭鋼炭素有限公司」(中国四川省)として連結子会社化した。

これまで、日本、米国の2拠点から高品質の黒鉛電極を主に先進市場へ提供してきた。今回、中国拠点を加えることで新興市場向け製品の供給体制を整えることにより、ハイエンドとボリュームゾーンの両市場に向けた二正面戦略を進めていく。

■ アルミニウムセグメント

- 当社製離床センサーが病院施設向けベッドに採用
 - ◆ 当社が開発した離床センサーが、本年2月にフランスベッド(株)の病院施設向けセンサーシステム「見守りケアシステムM-1」に採用された。本離床センサーは、軽くて剛性が高いアルミニウムの特性を生かした製品で、加重によるセンサーの微小変形を電気信号に変換し重量を測定する。人の動きによる重量変化を基に、独自のアルゴリズムを用いて寝返りや起き上がり、腰かけ、離床といった利用者の動作を検知する。今回の離床センサーを始めとして利用者の生体情報を測定する非接触型の睡眠(呼吸)センサーの開発も進めており、ヘルスケア・セキュリティ分野への拡販を目指す。